

おい書館

No. 39

富士市立図書館に

学ぶ

図書館づくり奮戦記

山本宣親さん

昨年に松戸市立図書館の藤塚さんが、富士市立図書館を見学されたことを聞き、市民の声をとり入れた図書館づくりのお話を聞く計画でしたが、急に御都合悪くなりました。そこで、山本さんの本を貸していただき、学習会をすることになりました。早速、富士市立図書館に電話で資料請求したところ、山本さんとお話が続き、資料だけでなく、

山本さん個人からビデオまでいただき、内容が深まりました。富士市は、製紙工業を中心とする約二十万人のまちで、図書館は一九九五年に新しく開館し、山本さんは現在副館長をされています。

図書館は

すばらしい職場

山本さんは当時、市役所の広

報広聴課に勤務されていました。まちづくりの構成員の一人として権利と義務をわきまえ、必要な発言や行動する「市民」の存在は、まちの進歩発展の推進力と言います。そして、市役所の職員はまちづくりのプロ、市民と共にまちづくりを具体化する事務局員ととらえています。

一九八七年（平成）四月、図書館勤務となりました。当時の中

図書館は六四年に建てられた三三三の狭くて暗い図書館でした。蛍光灯を増設したり、明かしく挨拶したり、架架室に音楽を流したりしました。貸出冊数を無制限にしたり、レゾレンスに力を入れたり、地元紙やテレビ放映されるなど利用者が増えてきました。

図書館は施設よりも職員によるサービスが大切であることを学んだと言われますが、なにより図書館職員のミーティングや話し合いが良かったのではないですか。



図書館で
まち興しを

読書グループ等の要求から、瀬戸内寂庵さんの講演会を企画しま

本と人・人と人が 出会う場所をめざして

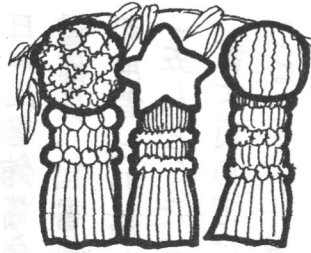


した。図書館に關係する全ての団体グループ、四十団体は協力し、報道機関にも協力要請し、二週間で二七三枚売りました。事前解説の会を開催し、図書館は著書の予約激増、市内の書店も売行好調だったそうです。この講演会の参加者の50%を越える人が図書館を利用したことがない人たちだったのです。報道機関に資料提供することで、図書館のことがまちの話題になっていったのです。

新しい図書館をつくらう

一九八七年(56)、富士市図書館協議会が発足し

ました。富士市の図書館の分析をして、市立図書館の整備拡充策についての調査研究と提言として、新中央図書館建設と三地域館の増設を提言しました。協議会として行った市民との話し合いは三十三回、延べ二三四人と記録されています。



図書館見学

図書館見学は、八七年と九四年の間に延べ二四回(六六館)行なわれました。教育長始め、行政、図書館関係者、なかでも協議会と同行した市民は、その後の反省会等が大変好評で、その後見学ツアー

を企画しました。参加人数は延べ六五八人になりました。山本さんも公私共々八十館、延べ百回になったそうです。

先進図書館見学は、参加した人たち全てに刺激を手え、図書館への夢を膨らませ、世論を形成するエネルギーになったと山本さんは言っております。

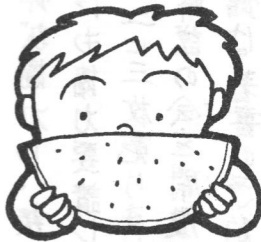
視察から得たこと

協議会の提言の後、一九八九年から、関係九課による庁内組織「中央図書館建設検討連絡会」が設置されました。新中央図書館建設基礎調査(中間報告)出されましたが、十回の会議の内、正式討議の前に「図書館とは何か」の学習会を二回行い、遠まわりのようでも良い結果になったそうです。



検討委員会発足

一九九〇年(平成)六月、市内臨時組織「中央図書館移転改築検討委員会」が発足しました。助役を委員長に十四名で構成されました。この委員会に市民の声を反映させるために投書箱を置いたそうです。一年間に五五通投書があり、これに対して回答を掲示しマイルしたところ、利用者と職員の大いパイプになり、新中央図書館計画に生かされました。又、図書館利用者や団体、グループが中心になって講習会が行なわれました。



図書館基本計画

日本図書館協会は、委員会、図書館員、図書館協議会、図書館利用者との話し合いを四回、一五人としたそうです。富士市の方たちのすごいところは、この「基本計画」(A4判、B5判)のダイジェスト版、B5判30PとB5判タタの二種類を作り、この五千部を方々に配布し、説明会を何度も行ったということです。

委員会は、日本図書館協会に「富士市立図書館基本構想策定」左業務委託しました。一九九一年三月、「富士市の図書館基本計画」が提出されました。

設計建築始まる

一九九二年四月、予算措置がされ、建築設計が始まりました。設計事務所との委託契約に入札をしなかつたのです。図書館建設は、ハード、ソフト両面並行していかなければならぬということ、安いほどサービスが粗略にならざるを得ないことなど、特命方式の随意契約をしたそうです。図書館の建築設計を最も多く手掛けている事務所を調べて、その中から選びました。それが株式会社和(やまと)設計事務所です。



単独館か

複合館か

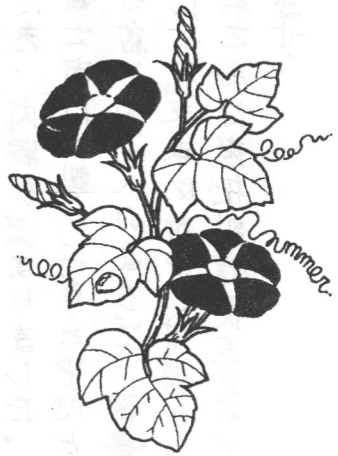
ここで単独館か、複合館か悩んだそうです。和設計事務所の西川所長によると、複合館にする理由は、財政経費削減のためや用地の取得難にあるといい、複合館も併設館とも、人事管理の面から図書館が施設長の下に置かれる不都合を指摘しています。例えば、資料収集の不偏性や、利用者のプライバシー保護など、独立性が必要な施設だからです。建築上も、重層構造による制約などだそうです。

但し、図書館部分の建築を最優先にして全体の建物を設計できる場合は別であると言っています。

教育委員会では複合館を方針として出してきたが、単独館を求める陳情書が、市民から提出されました。二、三週間の間は五千人を超える署名を集めたそうです。

そのことが影響してか、市議会文教民生委員会の事前協議会で、単独館の方針が正式決定されたようです。

(磯村光良)



9月例会

富士市立図書館②

- ・それぞれの機能について
- ・ビデオ上映します。

9月27日(土)

P. M. 2:00~

発行 おーい図書館
連絡先 青木和子
松戸市稔台ハ三〇六〇
〇四七
(三六七)五三八四